

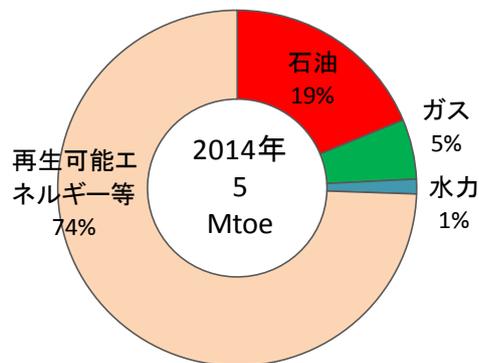
5-10 ガボン

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2014年) : 5 百万 toe (日本の 0.01 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2014年) : 3.01toe (日本の 0.87 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2014年) : 313%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 3.5 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 0.3%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 2.07 CO₂ 換算 ton (日本の 22.1%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2015 年末) : 23.5 年、天然ガス N. A.

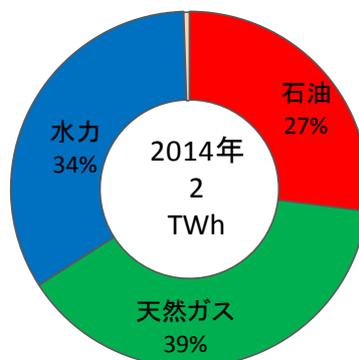
一次エネルギー供給構成 (2014 年)



Country: Gabon

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2014 年)



Country: Gabon

(出所) World Energy Balances 2016, IEA

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 石油・天然ガスの開発を中心とした政策を石油・炭化水素省が、国内供給を中心とした政策をエネルギー・水資源省が所管する。石油・炭化水素大臣には Etienne Ngoubou 氏が、エネルギー・水資源大臣には Guy Bertrand Mapangou 氏が就任している。

(2) 基本政策

- 原油生産・輸出がガボンの重要な産業・財源であるが、原油生産量が 1996 年の 36.5 万 b/d をピークに減少傾向にある。そのため、新たな石油資源の開発と生産量の回復と同時に、原油輸出に依存しない経済構造の確立が優先課題となっている。
- 随伴ガスはその多くが燃焼処理されており、この有効活用が求められている。
- 国内へのエネルギー供給では、電力へのアクセス率の改善と、必要な電源開発が優先課題となっている。

(3) 最近の動向

- 2014 年以降、労働者ストライキが頻発している。政府の勤勉手当不払いを理由として、外務省・保健省等職員（2014 年 4 月）、Owendo 港の税関職員（同年 5 月）が無期限ストに突入。また、社会保険や最低賃金・退職年金の見直しを求めて 2014 年 12 月に全国石油従業員労働組合（ONEP）や 2015 年 2 月に公務員労働組合連合がストを行使。その後も、電力・水道の SEEG 社の基礎サービス部門の従業員（2015 年 2 月）、Gabon Telecom 社の従業員（同年 2 月）、さらには教職員（同年 6 月）等もストに突入しており、全て根本的な解決には至っていない。
- 2015 年 10 月 27 日、同国南部の深海 5 鉱区について 2016 年 3 月末を応札期限とする入札（11th licensing round）を開始した。
- 2016 年 5 月、Shell は同国で保有する油田鉱区権益の売却を発表した。具体的な鉱区名や売却金額は不明ながら、欧米および中東系企業へ売却される模様である。
- 2016 年 6 月 2 日の OPEC 総会で、同年 7 月 1 日よりガボンの OPEC 再加盟が承認された。
- 2016 年 9 月、Ali-Ben Bongo Ondimba 大統領が再選を果たし、Emmanuel Issoze Ngondet 外務・仏語圏・地域統合大臣を新首相に任命し、「開かれた内閣」の組閣を命じた。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 我が国の対ガボンからの原油輸入は、2014 年度の 124 万 kl から 2015 年度は 31.3 万 kl へと減少している。石油製品および天然ガスの輸入は無い。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Gabon

(2014年)

(1) 一次エネルギー供給量		5 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		3.01 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.29 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		313 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量		3.5 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量		2.07 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	0 %
	石油	19 %
	天然ガス	19 %
	原子力	0 %
	水力	1 %
	再生可能エネルギー等	74 %
(8) エネルギーの輸入依存度		-213 %
(9) 石油の輸入依存度		-1,141 %
(10) 輸入原油の中東依存度		- %
(11) 原油の輸出先	第1位	日本
	第2位	米国
	第3位	オーストラリア

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA

(10)～(11) : World Oil Trade, Wiley Blackwell